



セイコーエプソングループ国内最大規模の製造拠点として構える東北エプソン。顧客の期待を超える商品・サービスをお届けすべく、「東北エプソンにしかできない技術」を確立し、主に半導体やプリンタのインクジェットヘッドの開発製造を行っています。「教育制度や社員サポートが充実していて、やりたい仕事に挑戦できる環境があります」。そう話すのは、半導体製造工場と顧客をつなぐ、IC生産企画管理部の高橋弘子さん。なかでも研修は、自身を見つめ直す良い機会になっ



vol.1
個々の活躍とチーム力で
挑戦し続けられる職場

東北エプソン株式会社
高橋 弘子さん(勤続22年)

ているそう。また「工場の能力を最大限に発揮するよう各部門が連携して、お客様の要望に応えられた時、チームの力を感じます」という言葉からは、経営理念の「総合力発揮」を象徴しています。令和2年9月には「えるぼし」[※]認定を受けた東北エプソン。正社員の勤続年数は女性が男性を上回っていることから、女性にとってプライベートと仕事を両立しやすい職場であることを裏付けます。「一人ひとりが目標達成に向け挑戦しています。何かあればお互いさまで、協力し合う意識や体制があります」という事業管理グループの佐藤千春さんも、育児休暇を経て、今なお子育てに励んでいます。「自由闊達^{めだた}で風通しの良い環境づくりを目指しており、近年の調査で女性リーダーの職場は優れている傾向にあります」と管理部長の池田伸さん。性別年齢に関係なく誰もが挑戦し続けられることが、組織の質の向上や利益につながっていく。数々の相乗効果が、東北エプソンの今を築いています。

こんな取り組みをしています！

最大60日の有休を繰り越せる
「健やか休暇」を設けています。

前々年度から最大60日の有給休暇を繰り越せる「健やか休暇」は、育児、介護、自身の病欠などに利用可能。この制度を利用した男性社員の育児休暇取得件数も年々増加中です(令和2年度は10月までに5件)。みんなが育児に参加しようという意識が、全社で広がりを見せています。

[※]厚生労働省「えるぼし」は、女性の活躍を推進する優良企業を認定する制度。5つの評価基準によって3段階で認定。同社はすべての基準を満たし「3段階目」の認定を取得。



東北エプソン株式会社

酒田市十里塚字村東山166-3
TEL. 0234-31-3131(代表)
創業●昭和60年1月
従業員数●1974名 ※令和2年10月現在

始まっています！ 個性を生かし、 共に輝く職場づくり

一人ひとりの顔や名前が違ふように、一人ひとりの持つ力は異なります。
誰もがその力を発揮できる職場づくりに取り組み、
みんなの力を結集させて、より大きな力の創造につなげている
酒田市内の事業所をご紹介します。



県内初の民間介護施設として開所し、現在、特別養護老人ホームをはじめとする8つの福祉サービスを展開する幾久栄会。平成30年には、女性活躍推進法の一般事業主行動計画を努力義務企業ながらいち早く策定し、女性も働きやすい職場づくりを実践しています。人手不足が叫ばれる介護業界ですが、幾久栄会では10〜70歳台までの幅広い年代の職員が在職しています。中には、産休・育休後に復職した方も。その理由の一つに「効率化」があると、施設長の佐藤潤さんは話します。



vol.3 励まし合える 風土づくりを第一に

社会福祉法人幾久栄会
施設長 佐藤 潤さん

「効率的に業務を進めるために、設備の充実を力を入れています」。職員間で好評なのは、カメラ搭載のナースコール。コールと同時に利用者の姿が職員のスマートフォンに写し出され、容体を確認、今何が必要かすぐに対応に走れる仕組みです。他にも、入浴作業を軽減するミスト浴や、呼吸と心拍数が分かるバイタルセンサーなども導入して、職員の心身の負担軽減を図っています。また、多数の事業所がある幾久栄会では、個々の職員に合わせた働き方も可能。一時的に日勤のみの施設への配属など、ここならではの方法があります。

とはいえ、介護現場はケースバイケースの連続です。目まぐるしい状況下で、「『今日も頑張ったの』『明日も頑張ろぞ』と気持ちよく帰路に就くことのできる職場。職員の働きがいにつながる互いを労う組織風土を、この先もずっと守り継いでいきたいです」と佐藤さん。利用者も職員も、一日一日を前向きに過ごせる、そんな場所を幾久栄会は目指しています。



社会福祉法人幾久栄会 特別養護老人ホーム幸楽荘

酒田市小泉字前田50
TEL. 0234-64-3711
創業●昭和51年4月
従業員数●136名 ※令和2年10月現在



令和2年に市内初の「プラチナくるみん」認定を受けた東洋開発。この認定制度は、子育てサポート企業として厚生労働省の「くるみん認定」を取得した企業が、さらに高水準の基準をクリアすることで受けられます。

令和元年にも「山形県ワーク・ライフ・バランス優良企業知事表彰」を受賞した同社の働きやすい環境づくりは、取締役の草深由美子さんが、仕事と育児、家事に勤しんだ経験がヒントとなりました。「子どもに何かあればすぐに駆けつけたいとならないし、仕事

が忙しいときは会社で寝かせることもありました」。年々女性の社員も増えていく中、一人ひとりの事情をくみ取ることに注力。妊婦に配慮したパンフレットを作成したり、看護休暇の対象年齢を広げたりと、その時々に応じて体制を整えていきました。

令和2年4月に入社した営業の小田亜香利さんは、出産を機に帰郷。復職後の育児との両立に不安があったのですが、「正社員かパートかで悩んだ時、『小田さん自身はどうしたいの?』と聞かれて迷わず正社員を志しました。その決断には、短時間勤務で仕事をテキパキこなしながら、育児に励む先輩たちの姿があったといえます。「子どもとの経験はすべてが宝物。それを逃したくないのは誰だって同じです。その経験をいかにサポートできるかが今後の課題」と草深さん。仕事も家事も毎日のことだからこそ、職場の人同士が認め合い、支え合っていく必要性。そのロールモデルとして、東洋開発は理想の働き方を常に考え、実行しています。



株式会社 東洋開発

酒田市本町1丁目5-31
TEL. 0234-24-6226
創業●平成6年4月
従業員数●17名 ※令和2年10月現在



vol.2 キャリアを積む 先輩ママがお手本です

株式会社 東洋開発
小田 亜香利さん(勤続8カ月)

が忙しいときは会社で寝かせることもありました」。年々女性の社員も増えていく中、一人ひとりの事情をくみ取ることに注力。妊婦に配慮したパンフレットを作成したり、看護休暇の対象年齢を広げたりと、その時々に応じて体制を整えていきました。

令和2年4月に入社した営業の小田亜香利さんは、出産を機に帰郷。復職後の育児との両立に不安があったのですが、「正社員かパートかで悩んだ時、『小田さん自身はどうしたいの?』と聞かれて迷わず正社員を志しました。その決断には、短時間勤務で仕事をテキパキこなしながら、育児に励む先輩たちの姿があったといえます。「子どもとの経験はすべてが宝物。それを逃したくないのは誰だって同じです。その経験をいかにサポートできるかが今後の課題」と草深さん。仕事も家事も毎日のことだからこそ、職場の人同士が認め合い、支え合っていく必要性。そのロールモデルとして、東洋開発は理想の働き方を常に考え、実行しています。

こんな取り組みをしています！

働く子育て世代を応援!

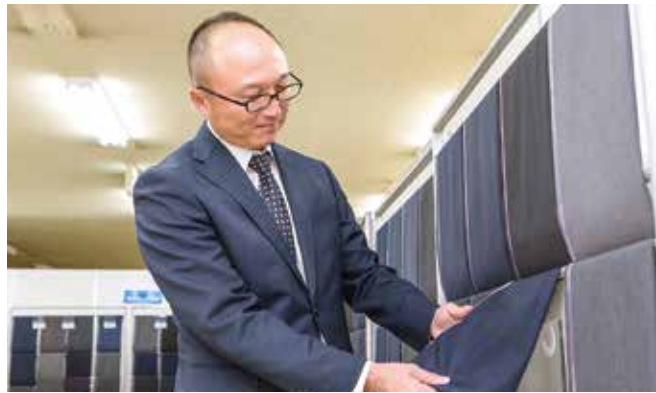
人数制限なしの子ども手当。

幾久栄会では、小学校修了までの子ども1人につき1万円を毎月支給しています。“小さな子どもをもつ職員の負担を、少しでも和らげられたら”という理事長の意向で、3年前に始まった試み。人数制限がないため、子どもの多いご家庭も、安心して子育てをすることができます。

こんな取り組みをしています！

年に一度の誕生日のお祝いに、食事代を支給します。

大人になると機会が減りがちな、自分の誕生日祝い。東洋開発では、誕生日に家族や友人など大切な人と特別なひとときを過ごしてもらおうと、食事代を支給しています。社員からは好評で、普段なかなか行く機会のないレストランなどで、リッチなディナーを楽しむ方が多いそうです。



まちの小さな玩具店として創業した弦巻は、現在、主に学校や企業のユニフォーム、冠婚葬祭ギフトの卸売業を営んでいます。これらの商品展開に共通する想いは「感動応援」。誕生から入学・入社など、人生の節目をサポートする事業を展開しています。

そんな瞬間を輝かせるには男女の視点、若者ならではの考え、ベテランが得た経験など「さまざまなたった場・年代の想い」が欠かせないと、取締役社長の弦巻さんは話します。社員の男女比はほぼ半々で、営業営業事務、総務すべての職種に女性



vol.5 地元企業として 酒田の夢応援します

株式会社弦巻
取締役社長 弦巻 岳さん

を配属しており、年齢もそれぞれ。育児をしながら働く社員も多数いるため、仕事との両立を支援しようと就業規則を見直しました。その背景には、3児の子育て中の弦巻さん自身の気付きが、「どうしても家事や育児は女性中心になりやすいと感じています。女性社員も働きやすい環境づくりが不可欠だと、自分に子どもができてよく分かりました。そこで、みんなが不安なく働けるよう意見を募ったんです」。

近年実践した取り組みの一つが、有給休暇の整備。一日単位から半日単位、そして時間単位での取得を可能に。今では男女関係なくこの制度を活用しています。

令和2年に100周年を迎えた弦巻。『We support your dreams.』あなたの夢 応援します。企業メッセージの「あなた」は、顧客、社員、家族、そして周囲のすべての人々。これまで支えていただいた「お客様、先輩社員、関わってくださった皆様へ」感謝の想いを胸に。企業風土づくりが、101年目からも続いていきます。



株式会社弦巻
酒田市卸町1-1
TEL. 0234-22-5441
創業●大正9年
従業員数●17名 ※令和2年10月現在



酒田地区広域行政組合消防本部の消防署に勤務する真田さちさん。現在消防係として、災害時の現場活動や火災予防業務、日々の訓練などに励んでいます。

令和2年度に初の女性消防士として真田さんを採用した同組合ですが、以前から女性の受け入れ体制を整えてきました。平成24年度からの分署改築工事では、すべての分署で女性専用居室の設置を見越した設計に。同署では、真田さんの本配属の前に、倉庫部分を、浴室、トイレ、洗面台を設けた一室へと改築しました。月に一度は、本部に勤務す



vol.4 私だからできることを考え、 実行していきたいです

酒田地区広域行政組合 消防本部
真田 さちさん(勤続8カ月)

る女性職員との面談もあり、メンタルサポートも万全です。

今後の抱負を「消防士を目指すきっかけとなった救急隊員として活動できるように、多くの現場に向かいたい」と真田さん。消防士という仕事については、「24時間勤務の環境が整い、休暇制度も充実しているの、性別問わず業務に取り組めることが魅力」と話します。

消防次長兼予防課長の日下部進さんは、組織に女性が増えることで、住民サービスの向上につながると考えます。「特に救急業務で、女性や子どもの患者に対するきめ細やかな病状観察が期待できます」。

今後ますます活躍の場が広がる女性消防士。これからの消防組織について、「住民は男女ほぼ同じ割合なので、男性の職場という固定観念をなくして、住民の安心安全を守るという使命感を持つ仲間がもっと増えたら」と日下部さん。未来の子どもたちの世代までまちの平和をつなぐために。消防職員一人ひとりが、力を最大限に発揮できる組織づくりが進められています。



酒田地区広域行政組合 消防本部
酒田市飛鳥字契約場30
TEL. 0234-61-7119
消防吏員数●219名 ※令和2年10月現在

こんな取り組みをしています！

みんなが思い出を共有できる
社員旅行を実施しています。

年に一回の社員旅行は、一人ひとりの家庭事情などを考慮しながら、全員が参加できるよう日帰りか宿泊かを選べるプランを設けています。また、旅先で撮影した写真をまとめて作るオリジナルアルバムのプレゼントも。楽しかった思い出を社員みんなで共有しているそうです。

こんな取り組みをしています！

女性消防士の活躍推進を目指し、
全部署で組織力を向上します。

女性消防士の活躍を推進する取り組みとして、今年度は東北初の女性消防士、仙台市太白消防署の及川由佳里さんによるセミナーを受講。後日、全部署にセミナーの動画が配信され、当日出席できなかった職員の受講もかない、よりよい職場環境の実現を目指して、一人ひとりが意識を高めました。